

令和6年5月10日

意思決定支援モデル事業について ～18歳の選択／私の人生の主人公は 私～

横浜市立若葉台特別支援学校

若葉台特別支援学校では

18歳(高等部卒業・そして成人)と 卒業後の豊かな人生を歩むために

自分らしい生き方のために

学校では どのようなことを どのように学び どのような資質・能力をつければよいのか
研究・実践を進めていきます

令和6年度

- 意思決定支援とはなにか、全教職員で共通理解をもつ
- 意思決定支援に必要な資質・能力を令和7年度～令和9年度中期学校経営方針に反映させる
- 人的・物的環境整備～トーキングマット実践を通して、安心できる人、理解してもらえる人増やす
- 意思を表出できる場面や場の設定を行う

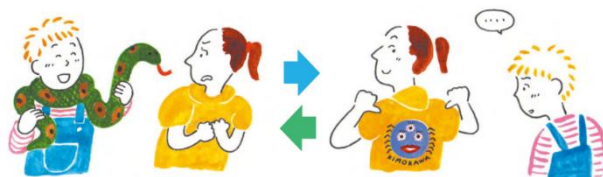
令和7年度

- 意思決定を支える資質・能力を育成する
- 意思決定をするための適切な情報を提供するとともに豊かな経験をさせ土壌を育成する
- 意思形成支援を意識した授業を展開する
- ◎他の特別支援学校に情報を提供し、実践内容も共有する

令和8年度

- 意思決定支援モデル事業を市モデルとつなげるための情報を発信する
- 市教委から横浜モデル(案)の発表
- 意思実現支援を目指して、本人の意思が日常生活・社会生活に反映できるように、本人や支援者(保護者)と共有するとともに、支援者に適切に接続する

時に、あなたにとって重要なことが、
私にとって重要ではないことがあります。



だれもが
「私の人生の主人公は私」



モデル事業について(特別支援教育課説明文書より一部抜粋)

1 趣旨

特別支援学校に在籍する生徒が、自身の将来の生活のイメージを持ち、自らの意思で卒業後の進路希望等を表明できるよう、モデル校を選定し、意思決定を支える支援方法やツール等の環境整備に取り組みます。

2 目的

- ① 様々な学習場面において、本人が主体となる意思形成支援・意思表示支援・意思実現支援を積み重ねていくことで、特別支援学校高等部卒業時の進路選択等や日常生活での様々な選択、高等部卒業後の社会生活場面における意思決定支援につなげていく
- ② 卒業後の社会的自立に向け、自己理解を促し、主体性や協働性を育むとともに、相談力を高める実践等を通じて、児童生徒のキャリア発達を促す。

3 これまでの取組み

- ① 若葉台特別支援学校知的障害教育部門高等部において1年時から3年時まで、キャリア発達を促す教育を柱に教育課程を実施してきている。特に「キャリアデザイン相談会」として、生徒自身が抱える課題を他の生徒と相談する場を設ける取組を行っているが、その相談会を通じて、生徒が「相談して良かった」「課題が解決した」と思える経験を積み重ねることの重要性を実感している。
- ② 就労した後、困ったときに自分のことを自発的に誰かに相談できる「相談力」が向上している。
- ③ 他の市立特別支援学校肢体不自由教育部門において、タブレット端末上の教育用アプリを活用し、授業や行事、現場実習の振り返りを、活動の写真なども添付しながらまとめることで、比較的重度の障害のある児童生徒の自己理解を深めて、さらに自己の意思表出が図られたことを実感している。